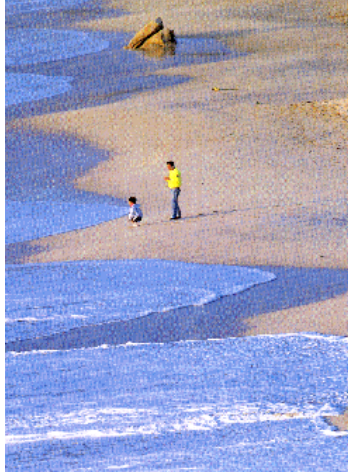


みんなのかんきょう

第2号 平成7年3月発行



【主な内容】

///ふるさとの環境自慢///

上中町天徳寺「瓜割の滝」

///この人///

消費することが豊かさではない、
限りある地球の資源を有効に使うことが
真の豊かさであることを自覚してほしい。

加藤隆夫さん

///家庭からでるゴミを考える///

///私の工夫///

表紙写真/水晶浜(美浜町)
(撮影/鈴木 健蔵)

●ふるさとの環境自慢

スギやヒノキが繁るうっそうとした森が生む名水 「瓜割の滝」 上中町天徳寺



国道27号線から小浜に向かうと、左に「瓜割の滝」を示す道案内が見え、道を曲がると天徳寺地区に入る。

この周辺は、源頼朝を供養するために建てられた真言宗天徳寺や88体の石仏群など優れた文化財に囲まれ、さらにスギやヒノキのうっそうとした森、古来よりどのような干天にも水を絶やさず湧き続ける湧水などにより、清々しさを人々に与えてくれる。

このため、この素晴らしい環境は別名「水の森」とも呼ばれている。

特に、山から湧き出る水は、「瓜割の滝」と呼ばれ、国の名水百選の一つである。

では、なぜ「瓜割の滝」と呼ばれたかという、ある時、瓜を冷やすと、その水のあまりの冷たさで瓜が割れたという故事から命名されたものである。

また、水の中の石は、何故かすべて紅赤色に染まっている。これは、「瓜割の滝」のような水温、水質にしか育たない非常に珍しい紅藻類の一種「ヒルテンブリチアリブラス」という植物が附着・繁殖しているからで

ある。

このようなすばらしい自然を育む水は、地域の生活用水として、農業用水や上水道に利用しており、水を守るため地域住民で「若狭瓜割名水管理組合」を組織し、水路等の維持管理や名水公園の美化清掃などを実施している。

この地域は、自然の素晴らしさを再認識させてくれるところである。

●この人

消費することが豊かさではない、限りある地球の資源を有効に使うことが真の豊かさであることを自覚してほしい。

仁愛女子短期大学教授 加藤隆夫さん

経歴

昭和34年、東京農業大学農学部卒業。同大学助手、仁愛女子短期大学助教授を経て、昭和51年から現職(同大学教授)。現在、福井県ごみ減量化等推進協議会座長、福井県消費生活審議会委員、福井市廃棄物減量化等推進会議会長などを務める。

◆先生は福井県のごみ問題に大変お詳しく、また、様々な活動もなさっていますが、どのようなきっかけで、関心を持たれるようになったのですか。

昭和43年より、短大で栄養士を育成するための講義と、実験を担当していますが、その中で、学生が家庭から出るごみにまったく関心を持っていないことを知り、将来、彼女たちが主婦になった時、きちんとごみの処理ができるように..とごみに関するいろいろな話をするようになったのがきっかけです。

◆ごみ問題についての研究をつうじて、日ごろお考えになっていることがたくさんおありだと思いますが……。

ごみ問題に対する人々の態度を、川の流れに例えると下流に流れるごみにはまったく関心がなく、上流から流れてくるものについては、機能や中身について強い関心を示すようなところがあります。

今までも、あらゆる場で訴えてきましたが、子供のころからごみ問題に関心を持つことがとても大切であり、そうした教育を是非進めてほしいと思います。

また、ごみステーションに持っていけば、ごみ処理場で燃やされきれいに無くなると考えている人が多いのですが、実際には姿を変えるだけであることを知ってほしいと思います。つまり、一部は、気体となり、ごみの中に有害な物質が混じれば有害な気体となります。また、一般には焼却するごみの十数%が灰として残ります。余談ですが、ごみの分別を上手にすればするほど効率的に焼却できるので、この灰の量は少なくなります。例えば、福井市では、昭和60年以前は、焼却灰の量が15%前後でしたが、現在は7~8%になってきています。

このように、灰の量は減りつつありますが、県全体では大量の灰が残り、各市町村では現在、その処分に大変苦労しています。例えば、福井市だけでも年間1万トン以上の灰がでているはずで、「焼却」がごみ処理の決め手とはならないことを皆さんに理解していただきたいと思っています。

◆ごみの減量化やリサイクルが進められていますが、このことで何かご意見がおありでしょうか。

もう少し、缶などのワンウェイ(使い捨て)の容器を少なくして、びんなどのリターナブル(再利用可能)な容器を多く使う方向にいったほうがいいですね。

また、現在、リサイクルがどんどん進められ、それはそれとしてエネルギーの節約やごみの減量化につながり、大変結構なことだと思いますが、ここに1つ大きな問題があります。それはリサイクルという問題は、ごみが出ることを前提にしていることだということです。リサイクルは大切ですが、もっと大切なのはまず、「ごみを出さない」ということだと思うのです。

そのためには、製造業者は、ごみになるものを作らない、流通業者はごみになるものは売らない、消費者はごみになるものを買わないことを原則とし、企業、消費者がそれぞれ自覚して行動すべきであり、それらの努力をしたうえで、それでも出てくるごみをリサイクルするというのが本来の姿ではないでしょうか。

今日のごみの問題を解決するには、モラルの高揚、規制の強化、デポジット制の導入、ごみの有料化など総合的な対策を進めていく必要があると思います。

すが、最後に上げたごみの有料化ということ消費が望まないであれば、原則にたちかえり、ごみになるものを買わない、また、ごみになったものを厳密に分 別するといいことを各人がきちんとやっていくことが大切ではないでしょうか。

◆最後にみなさんに特に望むことをお聞かせいただけますか。

まず、消費することが豊かさではなく、限りある地球の資源を有効に使うことが真の豊かさであることを自覚してほしいですね。

また、私たちの生活の場で作ったごみは、作った者、つまり私たちがそのごみのいわば主権者であり、責任をもって最後まで対処してほしいと思います。

(ききて 編集委員 田中恵子)

●家庭からでるゴミを考える

大量生産・大量消費の時代がはじまる前に「ごみ」はこんなに多かったのだろうか……。



◆有史以来のおつきあい

三方町では、毎年9月になると「縄文まつり」が開催され、多くの人々が遠い縄文時代に思いをはせ、まつりを楽しんでいる。

全国的にも有名な縄文遺跡「鳥浜貝塚」の発掘を契機にこの「まつり」が生まれたが、古代のごみ捨て場であった貝塚からは多くの貝殻にまじって、各種の生活用品が発見されている。とりわけ、赤色の漆が塗られた櫛が私たちに驚かせた。豊かさとは縁遠い古代のこと、大切に大切に使われた末にこの櫛は捨てられたのではなかろうか。

このように、有史以来、私たちは『ごみ』と深い関わりを有しながら生活しているが、今回は家庭から出る『ごみ』を中心にその現状や問題点をレポートする。

◆1人が1日あたり約1kgの『ごみ』を排出

福井の家庭から出る『ごみ』の排出状況は、昭和58年から毎年3%前後ずつ増大し、平成3年には、大型トラック約3万台分の約29万9千トンになった。これを県民1人1日あたりの排出量でみると、約1kgとなり、私達はこれだけの『ごみ』を毎日捨て続けて生活しているということになる。

また、その処理のため、県下の市町村全体では、平成3年度で約82億6千万円(施設整備費を含め)を支出しているが、県民1人あたりに換算すると年間約1万円の費用がかかっていることになる。

このように、ごみが増大してきた理由としては、消費生活の変化に伴う「使い捨て容器」の増加や家電製品・家具等の「粗大ゴミ」の増大、OA化に伴う「紙ごみ」の増加などが考えられている。

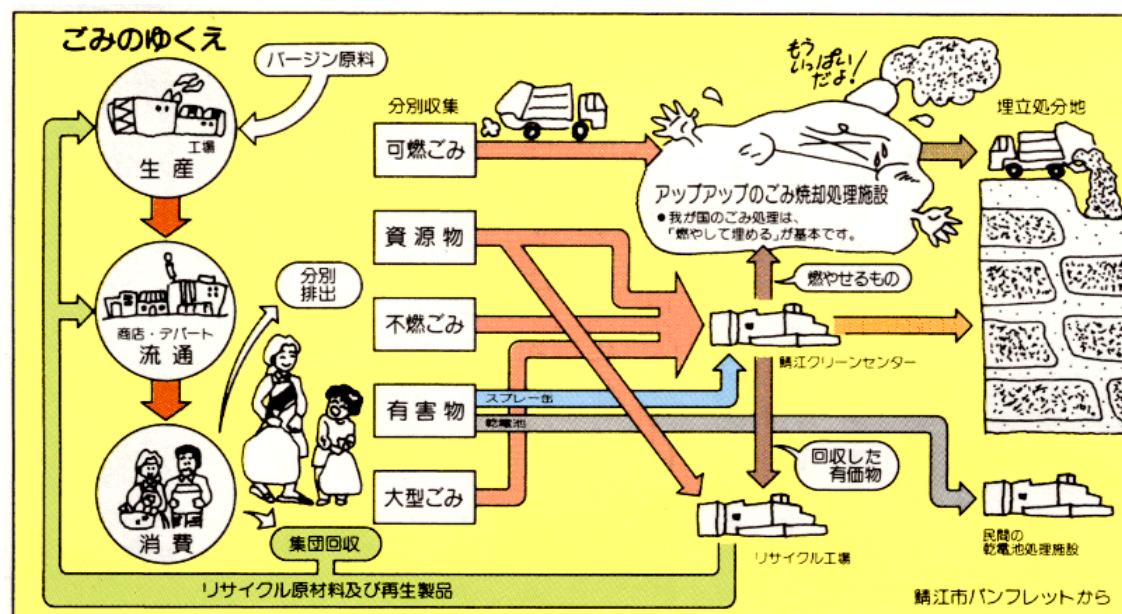
こうした状況を打開するため、県では平成5年3月に「福井県廃棄物減量化・再生利用推進計画」を策定し、西暦2000年の予測排出量の30%削減を目標(27万7千トン)として、県民、事業者、行政が一体となった減量化への取り組みを進めている。

県下の市町村では、ごみの分別の徹底と資源ごみの再生利用が積極的に行われており、ごみの総排出量も缶やびんなどの不燃物を中心に減少傾向を示し、平成5年度には28万2千トンになった。

ごみの排出量は、このように少しずつ減少傾向を示すようになってきているが、より一層の減量化を図るには、資源ごみの再生利用を促進する一方で、「過剰包装の見直し」や「廃棄物になったときにリサイクルしやすい製品の開発」など、『ごみ』を出さない工夫を社会全体で進めていくことが重要ではないだろうか。



鳥浜貝塚 赤色漆塗櫛



◆ごみ処理の最前線では… 羽毛布団の羽根が舞う？

ステーションに置かれたごみは処理場で焼却などの処理がなされている。

しかし、それで終わりだろうか、また、問題点はないのだろうか。鯖江クリーンセンターを訪問して、職員の方々に話を聞いてみた。

ごみ処理作業には、収集、持込み(大型ごみ)にはじまって、中間処理施設での破砕、焼却、灰の固化、資源ごみ回収と再生資源業者への引渡し、最終処分等さまざまな段階があるが、いくつかの段階で困っていることがあるという。

まず、収集運搬の過程では、水切りしない生ごみがたくさんあること。ごみに含まれる水が収集車から流れだし、悪臭を放つため、苦情の電話が鳴り、職員がその都度掃除をしに行くこともたびたびという。

さらに、ごみの分別をきちんとしない一部の人のために、問題が起こっている。その1つとして、燃えるごみの中に金属が入っていると炉の壁面を早く摩耗する現象につながるという。当クリーンセンターの年間修繕費9千5百万円のうち、約2分の1が炉壁の炉材の修理にあてられている現状である。

また、産業廃棄物として本来、処理されなければならない繊維くずなどが、時々ステーションに出され、焼却炉の集じん装置をつまらせるトラブルも発生している。

国では、廃タイヤ、廃大型冷蔵庫、廃大型テレビ、廃スプリング入りマットレスの4品目を、適正処理が困難な物に指定して、事業者に対し処理に当たって必要な協力を要請しているが、この4品目のうち、廃スプリング入りマットレスの処理には特に苦労しているようだ。運搬に際して嵩張ること、スプリングが鋼を使用しているため切断処理が大変難しいこと、また再資源化するにはマットとスプリングの分離が難しいことなどがその理由としてあげられている。

さらに、羽毛布団は切断した後焼却しているが、切断時に羽毛がふわふわと飛び散り、これを抑えようとして水をかけても羽毛は水を吸わず、建屋外に飛び出した羽毛の掃除に追われることもあるという。

資源ごみについては、回収しても資源としての引取り価格が安いいため、業者の工場までの運賃を差し引くと赤字になるものや、ものによっては有料で引き取ってもらうものがあるとのことであるが、こうした状況がなるにもかかわらず、分別再資源化を図っているという。それは、分別再資源化が資源の有効利用やごみの減量化を促進するだけでなく、埋立て最終処分場を少しでも永



く使うこと(延命化)につながるからである。最終処分場を新たに造るために要する長い時間と費用を考えれば、現状ではやむを得ないようだ。

最終処分場は、いわゆる「迷惑施設」として受けとめられ、全国的にその確保が大きな課題となっているが、鯖江クリーンセンターでは焼却灰を固化し、臭いのしない安全な状態にして埋め立てを行っており、周辺住民の理解を得ているとのことであった。

以上、ここに紹介した話の他にもたくさんお話を伺ったが、紙面の関係で割愛せざるをえないが、職員の皆さんが日夜、ごみ処理に熱心に取り組んでおられるのがひしひしと伝わってきた。

焼却灰

完全に燃えつきた灰は電気集じん器によって乾いた状態で捕集された後、灰固化装置で固化される。

Q&A

Q デポジット制度とは？

A 容器入り商品等を売る際、価格に一定の上乗せをし、消費者がその容器等を返却する時にその額が払い戻される制度。この制度が有効に活用されるには、容器を確実に返却する行動と流通システムの変更が重要なカギとなる。現在、行われている制度は、ビール瓶がその例である。

Q ごみの有料化とは？

A ごみの処理は、税金を使って処理をされているが、個人一人ひとりが直接費用を負担しないため、住民の中には「ごみはただ」の意識がある。そこで、ごみを有料化し、住民に処理コストを意識してもらい、ごみを減量化する目的で行われている。方法としては、市町村が指定するごみ袋を住民に貰ってもらう形の有料制度がその例である。

Q アルミ缶は、再生して、また、アルミ缶になるの？

A 回収されたアルミ缶は、アルミ缶再生地金として、その内の約70%が各種機械部品、特に自動車などの部品に用いられる鋳物、ダイカスト製品や製鉄用脱酸剤に加工される。また、約30%は、CantoCan(缶から缶へ)という形で再びアルミ缶の生産に用いられている。

私の工夫

◆ごみの分別を上手に使って(福井市・中村和子さん)

私は、台所で、ごみの種類ごとに袋に詰めて、別々に処理をしています。まず、生ごみは、バケツのなかにボカシと一緒にいれて処理をします。あまり臭いもせず、だんだんごみの嵩が減り、水が抜けた後は、堆肥になりますので、それを植木や花などの土に混ぜて使っています。

また、新聞、雑誌、ダンボールなどは、まとめて私や家の者が資源回収業者のところに持っていったり、業者が回収にきた時に出します。

さらに、ビンや缶は当然分別回収に出し、トレイや牛乳パックなどは主なスーパーで回収しますので、そこに出します。

ところで、今、困っていることは、ペットボトルをどのように処理するかといいかということです。ペットボトルから水きりネットなどのリサイクル商品が作られていますが、このようなものをもっと出来れば回収が進むんじゃないかと思っています。

このように分別に努力した結果、家族の人数が多いわりには、週2回の収集日に出すごみは、スーパーの買物袋1つでおさまるようになりました。

面倒だと思っ方がいらっやと思うわれるでしょうが、分別の仕方を自分の利用しやすいようにすれば、案外うまくできるものだと思います。

◆使った物をリフォーム(坂井町・大津谷とみさん)

私が、いろいろな物のリフォームに取り組むようになったのは、2番目の子供が出来た時で、妊娠中に使った腹帯を生まれた子供の産着にしたのが始まりです。もう、その子も23歳になりましたので、あれから23年が経ったんだとふり返ったりもします。

その後は、こわれた傘の布でレインコートを作りました。1番目の子供と2番目の子供は年子でしたが、雨の時、小さい子供2人に傘を持たすのが可哀想に思い、何か方法がないかと考えていましたら、ちょうどその時、骨の折れた傘がありましたので、それでレインコートを作ったわけです。

それからは、壊れた傘でさらに、布団入れや、帽子、チョッキなどいろいろなものを作ったり、古い着物を使って甚平なども作りました。

また、折れた傘の骨を何かに使えないかと考え、今では布巾乾しなどに利用しています。

現在、リフォームの方法を広く知ってもらうために、公民館で折れた傘を利用して、雨具や帽子などを作る講習会を行っておりますが、今まで100人以上の人に話を聞いていただきました。

リフォームできるものを除き、生ごみは、畑の肥料に、ペットボトルには花を植え、また、トレイは、スーパーの回収に出すなどして、ごみの回収日にはほとんど出していない状況です。

このように取り組むようになったのは、物を捨てるのが、もったいないと思う気持ちが強く、何か利用できないかと常に考えていたからです。皆さんも一度取り組まれてみてはいかがでしょうか。

読者の窓

● 「二夜の川」の写真の鯉は、本当に生き生きと清流のなかで泳いでいますね。これこそ地上の生きものの本来の姿でなければならないのです。人類にとって「エコロジー運動」がいまほど大切な時はないと思います。今後のご活躍をお祈りします。(福井市 35歳 主婦・女)

● 現在、各地で川や山、海、空気など環境をきれいにしようという取組がすすめられ、とても素晴らしいことだと思います。一方、昨年、池田町においてはいろいろなところでホテルがワラワラと乱舞していました。川に手を加えなくとも、しっかり残る自然もあります。これからは、環境をきれいに換えようとする努力と、しっかり残していこうとする努力の2通りが大切になってくると考えられます。(鯖江市 37歳 教員・男)

● 県内のきれいな自然風景を写真等で紹介して下さい。風景はどこから、どこを観たもの等の記載をお願いします。(大野市 46歳 主婦・女)

● 各市町村、地域で行われている環境整備事業を具体的に紹介していただきたい。ページ数ももう少し増やして、充実したものにと希望します。(小浜市 91歳 無職・男)

● 私の家庭で、トンボのやご、ゲンゴロウを養っていることから、ふくいの水、美しい川、真冬のブナ林のエッセイを興味をもって読みました。(春江町 57歳 公務員・男)

● 水の大切さがわかりました。(福井市 10歳 小学生・男)

● 我が町の二夜の川には美しい鯉が泳ぎ、孫も週に1度は、鯉に餌やりに行くのを楽しみにしています。美しいことは本当に良いことです。(敦賀市 55歳 公務員・女)

● 生活排水に、こまかいごみも流さないよう気を付けております。(敦賀市 55歳 主婦・女)

ご利用ください「環境アドバイザー制度」

県では、環境問題に関する学習会等へ講師として環境アドバイザーを派遣しています。平成6年6月の制度発足以来、学校、公民館、消費者グループなど各種団体にアドバイザーを派遣してきました。平成7年度においても、年に20回程度の派遣を予定しており、予算の範囲内において、環境アドバイザーの派遣に対する謝金および交通費を負担します。派遣希望の方は、県環境保全課までご連絡ください。

◆派遣申請の方法

※派遣を申請される方は、県および各市町村環境保全担当課にある申請書に必要事項を記入して、原則として学習会開催日の2か月前までに、県環境保全課へ送付してください。

※県環境保全課において、申請書を審査し、その採否とアドバイザー一名を通知します。

※学習会等が終了したら、1か月以内に実施結果について、実施報告書に必要事項を記入して、県環境保全課へ提出してください。

【アドバイザー名簿】

分 野	氏 名	公 職 等
大気・水環境 ・廃棄物	古賀 満男 北川 貞治	福井大学名誉教授 (財)北陸公衆衛生研究所所長
自然環境	石塚 之彦 林 武雄 増永 迪男 宮本 数男	元福井市清明小学校校長 自然塾「きびたき自然の会」代表 山岳エッセイスト 福井県山岳連盟会長
環境教育	鈴木 善次 原田 智代	大阪教育大学教授 大阪教育大学研究生
環境保健	日下 幸則	福井医科大学教授
環境と経済	工藤 進	福井県立大学教授
アメニティ	玉置 伸悟 朝日 恵子	福井大学教授 福井文化服装学院副校長
地域活動	北 幸夫 沢尾 武廣 立野 久夫 村上 哲雄 山内フミ子	「泰澄塾」塾長 「米川支流環境づくり協議会」(滋賀県)事務局長 「神山壮年有志グループ」代表 「二夜の川を美しくする会」会長 福井県連合婦人会副会長
リサイクル	宮川 琴枝	「くらしのゼミナール」(滋賀県)代表

【申込み・問い合わせ先】

〒910-80 福井県県民生活部環境保全課
TEL0776-21-1111(内線2443)